

3 サマーセミナー

3.1 菅島サマーセミナー（生物分野）

(1) 研究開発の課題（研究概要）

ウニは教材生物として優れているが、人工授精、その後の発生を実際に観察するという機会は少ない。本物を見る、実物に触れるという生物学の根本的な意義を体験させるため、今年度も本計画を立てた。

(2) 研究開発の経緯

名古屋大学大学院理学研究科付属菅島臨海実験所所長 澤田均先生に実習の受け入れを依頼し、下記の日時で受け入れていただいた。



プランクトン採集をする生徒たち

(3) 研究開発の内容

ア 仮説（ねらい、目標）

本事業は科学への関心や理解力などの「科学リテラシー」を促すことができる。

イ 研究の内容・方法

対象生徒 2年理系生物選択者の希望者

日時場所 8月3日～8月4日（1泊2日）

名古屋大学大学院理学研究科 附属菅島臨海実験所

実施内容

講師 名古屋大学大学院理学研究科 附属菅島臨海実験所

福岡 雅史 先生、白江 麻貴 先生、伊勢 優史 先生、中澤 志織 先生

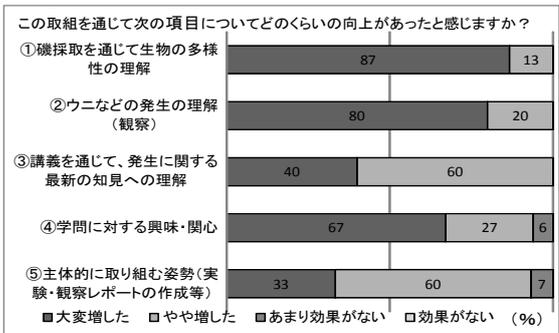
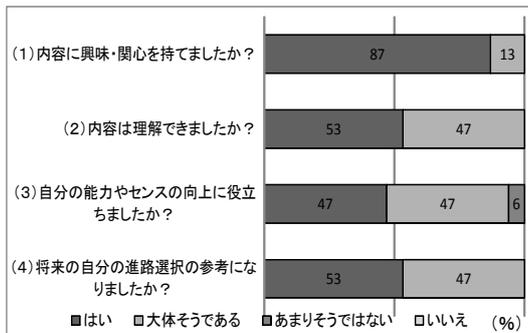
内容 (ア) 講義 ウニとホヤの受精機構に関する講義

(イ) 磯採集と生物の分類

(ウ) ウニの人工受精・発生の観察

(エ) プランクトンの採集・観察（夜と昼2回）

ウ 検証（成果と反省）



生徒の感想から

・顕微鏡を両目で見るのが難しかったですが、最後の方はできるようになりました。磯採集もプランクトンも多く生物が見られて楽しかったし、勉強になりました。講師の方々が楽しそうで私も好きなことを仕事にしたいと感じました。ウニの発生観察で細かく観察することができとても楽しく勉強になった。初体験の磯採集ができてとても良い経験になった。

アンケート結果や生徒の感想から、生徒にとって興味・関心が高まったことがわかる。このセミナーを通して、生徒が実際に自分たちで採集を行い、先生方から詳しい説明を聞くことで、生物の多様性、ウニの発生や海洋生物に対する理解が深まった。来年度も許される限り本セミナーを実施していきたい。